ぼくは利根川の水の滴「ポトム」。利根川の源流でポトンと落ちた1滴の水から生まれたんだ。ぼくといっしょに、川と水のことを学んでみよう。

川の子ども新聞

2004春号

上毛新聞

●もくじ

P1　川にまつわる話
P2-3　渡良瀬遊水地探検
P4-5　水とのたたかい
P6　川ってなあに？その
P7　とびっくす・アンケートの結果報告
P8　ポトムの楽校

御正作公園(大泉町)

川にまつわる話 6

板橋　春夫

◆大水に流されない大日様

館林市大島町の吉祥寺(真言宗)は、室町時代に大火に遭っています。また、ある年には大水で渡良瀬堤防が決壊し、本尊をはじめ寺宝がすべて流されてしまいました。そのために、南方に当たる地に現在のお堂が建てられました。

本尊は、どのような大水にも流されないようにという願いを込め、高さ三尺八寸(約一・一四メートル)、重さ百貫(約三七五キロ)もある青銅製の大日如来座像を下野国天明(現栃木県佐野市)の鋳物師に作らせて安置したそうです。

◆村役人を神に祭った五社大権現

昔は、人々のために尽くした偉人を神に祭りました。祭られたのは、豊臣秀吉や徳川家康など有名な人物が多かったのですが、ときには、その地域、その時代に生きた人だけが知るごく普通の人の場合もありました。

館林市上三林町の雷電神社境内にある、天保十年(一八三九)建立の「五社大権現」もその一つと言えます。地元でも知る人の少ない小さな石宮ですが、かつては「五社様」と呼ばれ、太平洋戦争ころまでは秋祭りが盛んに行われていました。

この地域は館林台地上にあり、農業水利に恵まれなかったので、たびたび日照りに遭い、農作物に被害が出てしまいました。そこで村人は、村役人にお願いをして用水を取り入れる工事をしてもらうことにしました。この仕事に力を尽くした五人の村役人を神様として祭り、その恩を忘れないようにしたのが「五社様」なのです。

◆修験者が一日で掘った池

同じように農業用水に苦労した館林市赤生田町の永明寺(真言宗)には、順体坊池と呼ばれるひょうたん型の池が今も残っています。昔、順体坊という不思議な僧がいて、ある日、朝飯前に弁財天の池を掘ってしまいました。

この池は、いかなる日照りのときでも水が溜れることがなく、日照りのときは、順体坊池の水をくみ上げ雨乞いをすると、必ず雨が降るといわれていました。雨乞いには、村の若者たちが裸になり、谷田川から順体坊池までを何度も往復して雨が降る祈願をしたと伝えられています。

□参考文献：『みのやの民俗』「あかばねの民俗」「おおしまの民俗」(以上、館林市教育委員会)、『群馬県邑楽郡誌』(群馬県邑楽郡教育会、一九一七年)

板橋春夫(いたばし・はるお)
一九五四年生まれ。群馬歴史民俗研究会代表。近著に「平成くらし時時記」(金田書房、二〇〇四年)、「暮らしの中の民俗学」第一巻(共著・吉川弘文館、二〇〇三年)などがある。